上野通明さん応援レポート

上野通明　チェロリサイタル

2016年11月11日（金）
京都　青山音楽記念館

京都での初のリサイタル。盛りだくさんのプログラムで

京都・青山音楽記念館／バロックザール。『音楽を愛する若者たちを応援したい』ー京セラ創業メンバーの一人であり、初代館長でもある青山政次氏の思いのもとに、1987年、京都・上桂の地に建設された音楽ホールである。上質の室内楽を堪能すべく、理想的な音響効果を実現した200席の室内楽専用ホール。会場に入ると木のぬくもりを感じ、コンパクトで温かみある雰囲気に癒される。

本日は、上野通明さんのチェロリサイタル。公益財団法人青山財団による助成公演でもある。

青山財団は音楽を志す人々への活動支援を行っている。そのひとつに、所有する青山音楽記念館を使用し、条件を満たした演奏会を開催する音楽家に対し、助成金を交付するという支援がある。これまでにも江副記念財団の多くの奨学生がこの助成公演の支援を受けており、今年度は上野さんのほか、ヴァイオリンの黒川 侑さん、弓 新さんもバロックザールでの助成公演開催の機会をいただいている。

オーケストラとのコンツェルト、ソロ、室内楽・・・と今年度も様々な演奏会が続く上野さん、京都の地では今回が初のリサイタルとなるそうだ。ドビュッシー、ブラームス、プロコフィエフのソナタや、ベートーヴェン、チャイコフスキー、黛敏郎氏の楽曲と多彩なプログラムが予定されている。

「・・・とにかく良い演奏をして楽しんでいただき、新しく出会う皆様に自分の演奏を知っていただければ」とのコメントが届いている。

会場には、すでにたくさんのお客様。バロックザールは客席との距離も近い。京都の皆さまに上野さんの演奏を聴いていただく、貴重な機会が始まる。

歌い、鳴らし、想いのこもった熱い演奏

上野さん、本日ピアノを弾いてくださる須関裕子先生とともに登場。ドビュッシーのチェロソナタで演奏会が始まる。

「・・・曲の冒頭が『何かが始まる』感じなので、最初の入りとしていいかなと思い・・・」、1番にもってきたそうだ。フランスの香りに満ちたお洒落な曲。ヴィルトォーゾピースと言われているとおり難しそうだ。上野さんはぐいぐいと曲に入り込む。ピアノとの掛け合いも見事に、弾いているというより、音楽を超えて演じている姿を見るかのよう。1曲目から『ブラヴォー！』の声があがる。

2曲目はベートーヴェン「魔笛の主題による7つの変奏曲」。モーツァルトのオペラ「魔笛」をテーマにしたこの曲は、「・・・モーツァルトとベートーヴェンの美しさを掛け合わせたような素晴らしい曲です・・・」。ホール全体に美しいチェロの音が鳴り響く。

前半の締めはブラームスのチェロソナタ。「・・・一番好きなブラームス。昔から弾いてきた曲であり、大好きな曲。自分を知ってもらうのに一番いいかなと思って選びました」と上野さん。

前半3曲、『気持ちがこもった』という表現を超えるような演奏。堂々とチェロと歌うその姿は、頼もしいほど。

後半は上野さんのソロでスタート。黛敏郎氏の「文楽」。
以前、出雲大社で邦楽とのコラボレーションの演奏会に出演し、邦楽の魅力に目覚めたのだそうだ。実際に文楽の舞台へ通い、「・・・文楽で表現される楽しさというか感情の激しさにびっくりして・・・」「・・・義太夫の歌いまわし。良い声の太夫、声はそれほどでもないけれど、しわがれた味のある太夫・・・」。鳥肌が立つような感動を覚え、「・・・とてもインスパイアされました」と語ってくれた経験そのものに、和楽器かと思うような音色と力強い表現で、文楽の世界観が示された。

続いてチャイコフスキーの「ペッツォ・カプリツィオーソ」。「・・・チャイコフスキー独特の悲壮感や哀愁が漂う曲。そこもまた大好きなんです。チャイコフスキーの人柄というか繊細さがたまらない感じです」。のびやかに大きく歌う演奏からは、ロシアの雄大な風景が思い起こされる。

そしてラストを飾るのはプロコフィエフ「チェロソナタ」。マニッシュかつエネルギッシュな曲である。ロシアの作曲家の作品が2曲続き、その対比も興味深い。「 ・・・タフな曲です。曲想も多様で充実しており、弾くのにも体力が要ります」との話であったが、演奏する上野さんは実に気持ちよさそう。柔らかな表情は、音を出し、弾くことを心から楽しんでいる様子。聴いているこちらも楽しくなり、客席の皆さんも心地よさげに耳を傾ける。コミカルなところもありながら、最後は壮大なクライマックスで締めくくり。

「・・・音の鳴らし方に気を配りたい」との心構えで臨んだリサイタル、須関先生のピアノとの息も抜群に、プログラムを終了した。

お客様からの熱烈な拍手に促され、アンコールは2曲。
ダヴィドフ「泉のほとりで」と、カタロニア民謡「鳥の歌」。
多彩なプログラムに、さらに色を添えて聴かせてくれた。

「もっともっと進化した自分を、また聴いていただけるように」

終演後のホワイエでは、多くの方々に囲まれる。京都デビューは上々であったもよう。

－京都での初のリサイタル；
「・・・京都には知り合いもほとんどおらず、色々不安もありましたが、とにかく良い演奏をしようと、張り切って盛りだくさんのプログラムを考えました」「・・・一つ一つの作品の違いと魅力が際立つ曲を揃えたので、それを思う存分楽しんでいただき、来てよかったと思っていただけるようにと、自分も一曲一曲全く違った気持ちで、思い切り楽しんで演奏しました」

－11月初旬は10日間で5公演と、本当にハードな日々；
「・・・一日48時間あれば良いのにと何度も思いました」「・・・タイトなスケジュールのせいにして納得のいかない演奏をするようなことはしたくなかったので、夢中で駆け抜けた感じです」

－沢山のお客様、東京からいらした方も；
「・・・思いのほか、沢山のお客様にいらしていただき本当に嬉しかったです。夢中で演奏しましたが、新しく聴いてくださった皆様にも喜んでいただくことができたようで、沢山の新しい出会いに感謝しています」「・・・もっともっと進化した自分を、また是非聴いていただきたいと思いました」

「・・・皆様が喜んでくださっても、自分としては、まだまだ納得のいかないところもありました」「・・・集中力と時間の使い方をもっと研究し、・・・作品とゆっくり向き合って、気のすむまで磨く時間というものを、意識して作っていきたいと思います」

タイトな日々を若さと気力と、なによりチェロを弾く喜びでこなした上野さん。多くの実りを得たようだ。

ピアノの須関裕子先生と

この演奏会のあとには、ドイツでの北村朋幹さんとのデュオ・リサイタル。その後も年末に向けて、いくつものコンサートが控えている。師走の日々も、また元気に駆け抜けていくのであろう。

上野さん、素敵な演奏でした。
また聴かせてください！

＜演奏会概要＞
◆出演
上野通明（チェロ）
須関裕子（ピアノ）
◆演奏曲目
ドビュッシー／チェロソナタ ニ短調
ベートーヴェン／魔笛の主題による7つの変奏曲 WoO46
ブラームス／チェロソナタ第1番 ホ短調 Op.38
黛 敏郎／文楽
チャイコフスキー／ペッツォ・カプリツィオーソ Op.62
プロコフィエフ／チェロソナタ ハ長調 Op.119
◆アンコール
ダヴィドフ：泉のほとりで
カタロニア民謡：鳥の歌

【コンサート・フライヤー】

KYOTO AOYAMA MUSIC MEMORIAL HALL Barocksaal
(公財)青山財団助成公演
Michiaki Ueno
上野通明
チェロ
リサイタル
Program
ドビュッシー　チェロソナタ ニ短調
C. Debussy: Cello Sonata in d minor
ベートーヴェン
魔笛の主題による7つの変奏曲 WoO46
L.v. Beethoven: 7 Variations on a Theme from the Magic Flute WoO46
ブラームス
チェロソナタ第1番 ホ短調 Op.38
J. Brahms: Cello Sonata No.1 in e minor Op.38
黛 敏郎 「文楽」
T. Mayuzumi: BUNRAKU
チャイコフスキー　ペッツォ・カプリッィオーソ Op.62
P. Tchaikovsky: Pezzo Capriccioso Op.62
プロコフィエフ　チェロソナタ ハ長調 Op.119
S. Prokofiev: Cello Sonata in C major Op.119
Cello Recital
©International Johannes Brahms Competition
ピアノ：須関裕子
Hiroko Suseki
11.11
2016
19:00開演
|金|〈18:30開場〉
上野通明 うえの みちあき／チェロ
パラグアイ生まれ。幼少期をスペイン・バルセロナで過ごす。2009年13歳で第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、全部門を通し日本人初の第1位。2011年ルーマニア国際音楽コンクール最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞も併せて受賞。2014年ヨハネス・ブラームス国際コンクールチェロ部門第1位。11歳でサントリーホールにて東京交響楽団とコンチェルトデビューして以来、東京芸術劇場、BUNKAMURAオーチャードホール、東京文化会館、新宿文化センター、デュッセルドルフ・トーンハレ劇場等で、ユーリ・トカチェンコ、ヨルダン・カムツァロフ、アンドレイ・アニハーノフ、小林研一郎、大友直人、沼尻竜典、飯森典親、西本智実、海老原光他指揮、ロシア響、新日本フィル、東フィル、日本フィル、東響、東京ニューシティー、山形響等との共演を果たす。NHK BS「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタルノヴァ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等に出演。宗次エンジェル基金、2014、15年ロームミュージックファンデーション、第44回江副記念財団奨学生。岩谷時子音楽文化振興財団「第1回 Foundation for Youth」「第6回奨励賞」受賞。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)、桐朋学園大学ソリストディプロマコース全額免除特待生。故馬場省一、イニアキ・エチェバレ、毛利伯郎の各氏に、2015年秋より、デュッセルドルフ音楽大学コンツェルト・エグザメンコースにてピーター・ウィスペルウェイ氏に師事。宗次コレクションよりGiovanni Grancino 1694年製を貸与されている。
バロックザール
Barocksaal
京都 青山音楽記念館
Aoyama Music Memorial Hall
★阪急電車嵐山線「上桂」駅下車西へ300メートル
お問合せ／青山音楽記念館
☎075-393-0011
〒615-8282 京都市西京区松尾大利町9-1
◆入　場　料／¥3,000【全席自由】※未就学児の入場はご遠慮ください
◆チケット販売／青山音楽記念館 ☎075-393-0011
チケットぴあ ☎0570-02-9999(Pコード 306-018) ※セブンイレブン等でも購入可

【コンサート・プログラム】

KYOTO AOYAMA MUSIC MEMORIAL HALL Barocksaal

(公財)青山財団助成公演

Michiaki Ueno

上野通明
チェロ
リサイタル

Cello Recital

ピアノ：須関 裕子
Hiroko Suseki

Barocksaal バロックザール
京都 青山音楽記念館
Aoyama Music Memorial Hall

2016年 11月11日（金）19:00開演

【コンサート・プログラム】

プログラム

ドビュッシー：チェロソナタ ニ短調

Ⅰ. プロローグ ／ Ⅱ. セレナーデ ／ Ⅲ. フィナーレ

ベートーヴェン：魔笛の主題による七つの変奏曲 WoO46

ブラームス：チェロソナタ 第1番 ホ短調 作品38

Ⅰ. アレグロ・ノン・トロッポ ／ Ⅱ. アレグレット・クワジ・メヌエット ／ Ⅲ. アレグロ

…休　憩…

黛 敏郎：文楽

チャイコフスキー：ペッツォ・カプリチオーソ 作品62

プロコフィエフ：チェロソナタ ハ長調 作品119

Ⅰ. アンダンテ・グラーヴェ ／ Ⅱ. モデラート ／ Ⅲ. アレグロ・マ・ノン・トロッポ

曲目解説

◆ドビュッシー：チェロソナタ ニ短調

独特な世界観から始まるこの曲はドビュッシーが最晩年に『様々な楽器のための6つのソナタ』という一連の創作活動を計画した時の作品の一つ。ソナタとしては簡潔で短めだが、ピッツィカート、ポルタメント、スピッカート等チェロのあらゆる技法が駆使され、大変幅広い表現内容のヴィルティオーゾピースである。2楽章と3楽章はattaccaで演奏される。

◆ベートーヴェン：魔笛の主題による7つの変奏曲 WoO46

若きベートーヴェンがウィーンにいたころ書かれた小品で、モーツァルトのオペラ「魔笛」第1幕のアリア「恋を知るほどの殿方には」を主題にした曲。モーツァルトの気品のある愛らしい音楽と、ベートーヴェンの風格と威厳、やさしさや激しさを兼ね備えた音楽の、どちらもが見え隠れする贅沢な作品となっている。

◆ブラームス：チェロソナタ 第1番 ホ短調 作品38

チェロの渋い音色が心にしみわたる冒頭を持つこの作品は、ブラームスが書いた2曲のチェロソナタの第1曲目で、彼が32歳の時の作品である。本当は4楽章のソナタになるはずだったが、大先輩であるベートーヴェンを模倣し、緩徐楽章のない3楽章形式となった。ウィーン風の可憐な二楽章のメヌエット、力強いフーガの三楽章と続き、それぞれの楽章の魅力が浮き立つ名曲。

◆黛 敏郎：文楽

この曲は1960年黛敏郎が31歳の時、倉敷の大原美術館創立三十周年を記念して行われたコンサートの為に書いた作品である。日本の伝統文化である文楽の世界、太棹三味線や義太夫の歌いまわしをチェロ一本で表現するという大胆な発想で、チェロという楽器の表現の可能性を無限に広げた無伴奏チェロの傑作である。

◆チャイコフスキー：ペッツォ・カプリチオーソ 作品62

1887年にチャイコフスキーが41歳で作曲した作品で、最初はオーケストラや管弦楽をバックに書かれたが、後にピアノとチェロの為にチャイコフスキー自らの手で編曲された。激しく苦悩に満ちた冒頭、たっぷり哀愁のこもったテーマ、そして対照的に軽やかで技巧的な部分が奇想的に出て来る大変魅力に満ちた小品。

◆プロコフィエフ：チェロソナタ ハ長調 作品119

この曲はプロコフィエフの晩年にかかれた曲で、彼がチェロとピアノのために書いた唯一のソナタである。病に侵されながらアゼルバイジャンの名チェリスト、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの協力のもと書き上げたこの作品は、重厚な低音のソロの冒頭から独特のハーモニーが織りなすプロコフィエフのメッセージが、ユーモアあふれる二楽章を経て軽快な最終楽章へたどりつき、壮大に感動の幕を閉じる。

プロフィール

上野 通明 Michiaki Ueno ／ チェロ

パラグアイに生まれ、5歳よりチェロを始める。幼少期をスペイン、バルセロナで過ごし、数々のコンクールで優勝または入賞。2009年第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクールにて13歳で日本人初の優勝、2010年第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞、翌年ルーマニア各地にて五夜連続演奏会に出演。2014年18歳で第21回ヨハネス・ブラームス国際コンクールチェロ部門第1位。いしかわミュージックアカデミー(IMA音楽賞受賞)、武生国際音楽祭、国際音楽祭NIPPON、Great Mountain Music Festival(全額免除奨学生)、カザルス国際音楽祭、クロンベルクアカデミー、ウィーン国際アカデミー等国内外の音楽祭、マスタークラスに参加し研鑽を積む。これまでに、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、ロシア交響楽団等国内外のオーケストラと多数共演。韓国KBSテレビ『クラシックオデッセイ』、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-BS「クラシック倶楽部」、NHKFM「リサイタル・ノヴァ」等に出演。宗次エンジェル基金、2014、15年度 ロームミュージックファンデーション、第44回江副記念財団奨学生。岩谷時子音楽文化振興財団「第1回Foundation for Youth」「第6回岩谷時子賞奨励賞」受賞。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース全額免除特待生として毛利伯郎氏に、昨年秋よりデュッセルドルフ音楽大学コンツェルトエグザメン(ドイツ国家演奏家資格)コースにてピーター・ウィスペルウェイ氏に師事。宗次コレクションよりGiovanni Grancino 1694年製を貸与されている。

須関 裕子 Hiroko Suseki ／ ピアノ

桐朋女子高等学校音楽科2年在学中に、第2回チェルニー＝ステファンスカ国際ピアノコンクールにて第1位、併せてステファンスカ賞、遠藤郁子賞受賞。翌年ポーランド各地でリサイタルを行う。第18回園田高弘賞ピアノコンクール第3位。第16回宝塚ベガ音楽コンクール第1位。第3回国際室内楽アカデミー(ドイツ)にてグランプリを受賞。桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科を首席修了。野平一郎氏プロデュース「ピアノ伴奏法講座」2008～2010年度受講生。ソリストとして、秋山和慶氏指揮・大阪フィルハーモニー交響楽団、長田雅人氏指揮・ふじのくに交響楽団、新田孝氏指揮・ニッポンシンフォニー、鈴木秀美氏指揮・静岡交響楽団、東京フィルハーモニー室内合奏団と協奏曲を共演。NHK-FMやTOKAIケーブルネットワーク「静響アワー」等に出演。室内楽・アンサンブル奏者として国内外の音楽家からの信望も厚く、堤剛氏をはじめ、多くの演奏家のリサイタルやCD等で共演している。これまでに亀吉慶子、寺西昭子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、野平多美の各氏に師事。桐朋女子高等学校および桐朋学園大学非常勤講師(ナンバリズミック)。